



ピアノ。ピアニストからみた室内楽入門

第3回 楽器の特徴について①ピアノ

深井尚子 ●ピアニスト

室内楽は、ソリストが集まればうまくいくというわけでもありません。ソリストたちは、当然自分の楽器を熟知していると思いますが、アンサンブルをするためには、相手の楽器の特徴も、ある程度知っている必要があります。今回から各楽器の特徴を①ピアノ、②弦楽器（ヴァイオリン、チェロ）の順にあらためて見直していきましょう。

私は、大学で室内楽を教えていますので、学生たちのアンサンブルを客観的に聴き、音のバランスやフレージングについて指摘します。その際、意外とお互いの楽器の特徴について話合っていないことに気がつきます。ピアノ専攻の学生は、ピアノが単旋律の楽器よりも演奏する音符の数が桁違いに多いこと、弦楽器類とピアノは音質がまったく異なることをほとんど意識しておらず、驚

かされる時があります。独奏ではたいへん優秀で、よい演奏をする学生が、アンサンブルになると突然、借りてきた猫のように遠慮がちになったり、逆に自分のペースで弾き進めたりするのは、ひとりでの演奏をする時は、ピアノの特徴や機能を体感的にわかっていたはずなのですが、アンサンブルの際にそれをうまく利用できていない、または意識していないことがよくあります。アンサンブルの際に重要なピアノの特徴は次の4点です。

① 88鍵ある音域は、低音部、中音部、高音部の3つに分けられ、弦が太く、巻線になってくる低音は、メロ

デーパートと同じように打鍵すると音量が大きくなり過ぎること。

② ペダルは、指の運動と同等の重要性があること。

③ グランドピアノにはダブルアクションという機能があること。

④ ピアノは、トリック楽器である

ことを知ること。この特徴を知って応用すること、アンサンブルの際の音量バランス



イラスト◎吉田しんこ

① 88鍵ある音域は、低音部、中音部、高音部の3つに分けられ、弦が太く、巻線になってくる低音は、メロ



Shoko Fukai

ウィーン市立音楽院修了。ウィーン古典派をレパートリーの中心に演奏活動中。特にベートーヴェンを深く研究しており、学術論文多数。ベートーヴェンピアノ・ソナタのCD第1集、第2集は好評発売中。色とりどりの小品集ハイドン、ベートーヴェン（ヤマハミュージックメディア）の校訂解説の楽譜も好評。現在、北海道教育大学音楽コース准教授。5月27日、松尾ホールにて所属している「メビウストリオ東京」のリサイタルを開催予定。東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650

スをコントロールすることができません。①と②は非常に重要で、ピアノの音量の最大の問題は、低音部の強い打鍵とペダルの過多によって起こることがほとんどです。③のダブルアクションを上手に使用することで、連打や和音の連続による伴奏部分は左ペダルを使用することなく美しく滑らかに演奏することができま

す。④のトリック楽器という言葉は、聞き慣れないかも知れません。ピアノは本来、打鍵した瞬間に音が減退するのにクレッシェンドやデクレッシェンドができること、また、フレージング全体がpであっても、伴奏部分をpp、メロディー部分をmpで弾くことで、多くの聴衆は全体がpに聴こえるなど、楽譜通りに聴かせるコツがあります。このピアノの特徴をあらためて確認した上で、弦楽器と合わせてみましょう。